

介護予防・日常生活支援総合事業等の充実の
ための厚生労働省職員派遣支援事業を受けて
～福岡県大川市～

福岡県大川市健康課



大川市の概要 (R2.4.1)



- 人口 33,752人 うち65歳以上人口 11,967人
- 高齢化率 35.5%
- 要支援・要介護認定率17.6%
- 第7期介護保険料5,350円
- 面積 33.63km²
- 日常生活圏域 6 圏域
- 地域包括支援センター 3 か所
- 市の特徴



☆主幹産業は木工業

家具、建具、材木など、木に関わる会社だけで600社ほどあり、石を投げれば社長に当たります。

= 自営業、家族経営の事業所が多く、生涯現役で働き、
家族の介護力も一定程度保たれています。

☆鉄道なし。車がないととても不便。

大川市の取組み～Before～

- 平成28年2月に新しい総合事業へ移行
- 当時は移行に向けて窓口対応マニュアルを作成し、介護保険係、高齢者支援係（直営地域包括支援センター）、健康推進係と一緒にロールプレイを交えて対応を学んだ。
- しかし、時間が経過し人事異動等で対応マニュアルは引き継がれず、対応がバラバラになっていた。
- そのため、効果のある短期集中通所型サービスを実施しているにも関わらず利用者が少ない状態が続いていた。
- また、令和2年4月から地域包括支援センターを民間委託したため、より対応の統一化を図る必要が出てきた。

大川市の取組み～Before～

【職員のつぶやき】

これでいいのかな・・・



- ・ 窓口の対応にずれがある気がする
- ・ 係を超えての話し合いがほとんどないな・・・
- ・ 委託包括に介護予防ケアマネジメントを学んでももらいたいけど、そのような機会がないかなあ
- ・ ケアプランチェックしてるけど予防プランは県の研修でもやってないしイマイチ自信がない・・・
- ・ 元気が出る学校（短期集中通所型サービス）の利用者が少ない。特に男性、どうしたらいいのかな・・・
- ・ 地域ケア会議毎月多職種でやっているけど、地域課題の解決にまで至らない。このままのやり方でいいのかな・・・
- ・ 高齢者の人口が減り始めた。事業費の伸びを抑えていかないと保険料の上昇が大変なことにな・・・

大川市の取組み～Entry～

6月末頃、福岡県より本事業の公募について通知

→ **これだ！**

早速係長級の職員で意見を出し合いエントリーシートを作成

【提出時の課題、取り組みたいこと】

■ 課題

- ・ 介護予防ケアマネジメントの質の向上と平準化
- ・ 地域ケア会議の全体構成や運営方法の見直し

■ 取り組みたいこと

市職員と地域包括支援センター職員が介護予防ケアマネジメントに関して共通の認識を持ち、実践できるような体制づくりに取り組みたい。

- ① 地域包括支援センター職員等へ、自立支援・重度化防止等に関する考え方や意識付けができる研修やグループワークの実施
- ② 考え方の定着と実践者の課題解決を図るため、自立支援・重度化防止のケアマネジメントを実践後、振り返りの研修を実施
- ③ 介護予防ケアマネジメントマニュアル等、地域包括支援センター職員が変わっても質が保てる仕組みの整備
- ④ 地域ケア会議の全体構成及び運営方法の見直し

大川市の取組み～Start～

8月厚労省より支援決定の連絡

→ **全3回の取組、進め方などについて係長級の職員で打合せ**

【第1回】～【第3回】の支援イメージ

介護予防ケアマネジメント研修は、1回ではなかなか定着しないので、振り返りの研修も行いたい。

3か月は実践期間として設定し、できればその後に第3回支援となるよう組み立てよう。

第3回までに思うように進捗していたら、庁内連携体制づくりまで持ち込みたい。

厚労省の人が来てくれることはそうあることではないし、これを機会にいろいろやってみよう！

でも、何か成果を出さなきゃいけないよね・・・
ちょっと不安・・・



大川市の取組み～ 1 回目支援～

9月24日（木）14：00～17：00 研修

対象：地域包括支援センター職員、介護支援専門員、市職員

テーマ：「自立支援に資する介護予防ケアマネジメント～人の可能性は無限大～」

内容：田中補佐の講義、自立支援の考え方、アセスメントのポイント、コロナ禍での実践方法、3か月後に振り返り研修に向けてbefore afterシート作成

9月25日（金）9：00～17：00 意見交換

- 1.前日の研修の振り返り、3か月後研修に向けて
- 2.適切な介護予防ケアマネジメント実施のための仕組みづくりについて
マニュアルの整備や住民啓発、庁内連携等の環境整備の手法等
- 3.地域ケア会議の見直しについて
- 4.短期集中型サービスについて座談会
- 5.今後の総合事業の方向性について



【1 回目支援の振り返りシートから】

- 課題が多すぎるなあ。マンパワーの確保も大変だな・・・
- いろいろな面でPR不足。職員間での共有もできていない
- 貴重なご意見が整理できず、自分の中でまとまりがつかずに終わってしまった・・・
- 具体的にはどうしたらいいか、まだよく分からないが、課内で検討しよう

大川市の取組み～ 1 回目支援の後～

9月30日課長補佐以下7名で協議

市町村整理シートの作成を通してお互いの意見を知る

- ◆ 1 回目の支援を受けて気づいたことは？
- ◆ 大川市の課題は？
- ◆ その要因は何？
- ◆ そのために何を？
- ◆ 2 回目の支援は1か月後。それまでに何を？

【整理した課題】 = 私たちの目標

- ①適切なケアマネジメントの実施
- ②地域ケア会議の運営
- ③男性高齢者の社会参加

(今後取り組みたいこと)

- ① 住民への啓発、介護予防ケアマネジメントマニュアルの改訂、退院時の病院との連携体制構築、窓口・包括の対応改善
- ② ビジョンを定めて関係者で共有
- ③ 庁内連携及び国際医療福祉大学との連携により社会参加の場の発見、構築

(次回の話し合いまでに取り組みたいこと)

- ① 主任ケアマネジャーに意見を聞く場を設定する。窓口対応について内部で検討を行う。
- ② 課内でビジョンの検討を行う。
- ③ 国際医療福祉大学の窓口の先生とコミュニケーションをとる。



課題は沢山あるけど、自分たちにできるところからやってみよう！

大川市の取組み～ 1 回目支援の後～

10月14日課長以下 8 名で協議

地域ケア会議の方向性、目的について整理する

◆ 何のためにやるのか？大川市として解決したいことは？

- 目的 →
- ・ 自立支援の考え方を共有する
 - ・ 認知症の方に必要な支援を考える

※毎回、会議のはじめに目的を伝え、参加者と目的を共有して会議を進める

◆ そのためにどんな会議にする？

- 手段 →
- ・ テーマを決めて事例提出してもらう
 - ・ 構成メンバーに民生委員の参加等
 - ・ ケア会議の種類を増やす

その他、市と包括保健師、市と包括主任CMで協議、市が医師会の地域ケア会議担当医師へ説明、市と認知症地域支援推進員と国際医療福祉大学の先生と協議を実施



2回目支援は地域ケア会議を実際見てもらい、多職種のメンバーにもどう思っているか聞いてみよう。

認知症支援に取り組んでいる推進員や認知症カフェの運営をしている国際医療福祉大学とも意見交換してみよう。

大川市の取組み～ 2 回目支援～

1 0月27日（火）9：00～17：00 意見交換

- 1.短期集中型サービスについて
- 2.地域ケア会議の見直しについて

1 0月28日（水）9：00～14：15 意見交換

- 1.適切な介護予防ケアマネジメント実施のための仕組みづくり
 - ・マニュアル・窓口改善、在宅医療介護連携事業での部会設置
- 2.認知症の本人・家族支援について



【2 回目支援の振り返りシートから】

- 市民への情報提供、周知が十分でないことを感じた。市民に視覚的にも分かりやすい媒体の作成をしたい。
- 助言等を参考に、もう一度包括職員（保健師＋主任CM）と一緒に介護予防ケアマネジメントマニュアル作成や、二次アセスメントシートの活用、短期集中通所型サービスのケアプラン様式等を検討しなおしたい。市からのやらされ感ではなく、包括職員と共通認識のもとに「なぜプラン様式を変えるのか」「なぜマニュアルを作成するのか」をみんなで確認し取組みたい。
- 大川市の強みも沢山あることに気づけた。
- 目指す目標を大・中・小のように明確にして、優先順位をきめ役割分担しながらできるところから一つずつ取り組む。

大川市の取組み～ 2 回目支援の後～

市（高齢者支援係）と包括保健師、主任CMで協議
マニュアル見直しへ意識統一、住民への啓発資料作成開始

窓口マニュアル作る！

市（介護保険係）と医師会担当理事で協議
在宅医療介護連携推進会議の下に部会の設置、病院への打診開始

動画作る！

11月5日課長以下10名で協議

振り返りシートの作成を通して大川市としてどう取り組んでいくか皆で考える
整理した課題に対して解決できたことは？
残りの期間での具体的な取組は？

→ **期間を区切って誰がいつまでに何をするかを話し合うことで
取組が加速**

②地域ケア会議 今の良いところを活かして運営方法を見直そう。

早速12月開催分から、資料の事前配布を始める。

地域課題の解決や③男性高齢者の社会参加については、健康課だけでやれることは限られている。庁内連携により大川市の強みであるものづくりを通じた社会参加や大学との連携による活動の場の拡大に取り組もう。

**3 回目支援でトップセミナーを実施し、庁内連携会議の発足日とする。
関係課へ根回し、12月に集合しての協議を実施。年明け3役へ説明。**

大川市の取組み～ 2 回目支援の後～

11月5日に話し合った内容を各担当者が実行

①適切なケアマネジメントの実施

- ◆ マニュアルは包括と協議の上今年度内に完成させる。
 - たたき台づくりを介護保険係と高齢者支援係で分担。1月の研修で一部示す。
- ◆ アセスメント様式改善に向け生駒市の2次アセスシートを2か月使用する
 - 高齢者支援係から包括に依頼。11月から試行開始。
- ◆ 通所Cのプラン見直しマニュアルに入れる
 - 高齢者支援係と包括保健師で協議開始。1月完成2月から使用開始。
- ◆ 退院時連携体制構築に向け部会の設置を1月の推進会議に諮る
 - 介護保険係がすでに医師会担当理事の内諾を得、市内2病院と協議開始。
- ◆ 11月中に窓口対応マニュアルを高齢者支援係と介護保険係で話し合い決定する。それをもとにロールプレイを含む窓口対応研修を行う
 - 介護保険係がたたき台を作成し、包括への受け渡し等も含めて高齢者支援係と協議。11月末に研修を行い12月から施行。
- ◆ 住民・医療機関への啓発資料として、説明資料、動画、通所Cの紹介資料を12月末までに形にする
 - 高齢者支援係と介護保険係で分担し説明資料を作成。高齢者支援係で動画作成と通所Cの紹介資料を見直し。12月中に完成。

大川市の取組み～ 2 回目支援の後～

みんな頑張っている・・私も何かできることはないか

12月に完成した啓発動画を見て「大川は変わる」



【3 回目支援の振り返りシートから】

- 皆がきちんと目的を共有し、それを達成するために力を出し合うことが、チームとなるということだと思った。
- 自分でもできるところから始めてみたことが、無理をせず進められたのではないかと。課長はじめ上の方々が「やってみよう」と言って自ら動いていることが私の原動力になった。
- 支援事業を受けて、大川市としての課題が見えてきた。係を超えて連携することで、解決、前に進むことができるということも実感できた。
- 今後は課を超えて大川市の高齢者はどこよりも生き生きしていると言われるような街づくりができればいいなあと考えた。そのための一員としても頑張りたい。



大川市の取組み～3回目支援～

1月20日（水）10：00～12：00 オンライン意見交換

1.大川市の取組みについて

14：00～16：00 研修

「自立支援に資する介護予防ケアマネジメント研修会」

内容 田中補佐の講義、前回研修から3か月取り組んだ事例発表、意見交換
大川市より総合事業の充実及び自立支援に向けた取組み報告

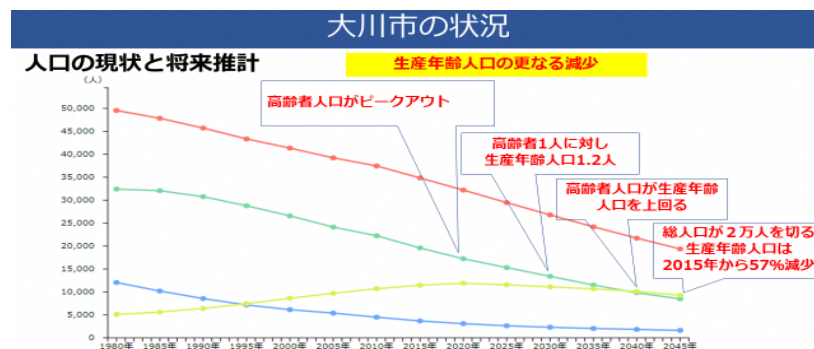
1月21日（木）10：00～12：00 庁内連携体制構築に向けたトップセミナー

「これからのまちづくりセミナー」

内容 大川市より人口減少等の状況共有
田中補佐の講義
大川市庁内連携体制（案）の提案

【結果】

市長、教育長参加のもと、幹部職員に現状の共有と庁内連携会議の設置の必要性について理解してもらい、令和3年度から庁内連携会議の運営を開始することに決定。



持続可能なまちづくり（共生）推進のための庁内連携体制整備について

2. 「（仮称）共生推進会議」（庁内連携会議）

【構成】

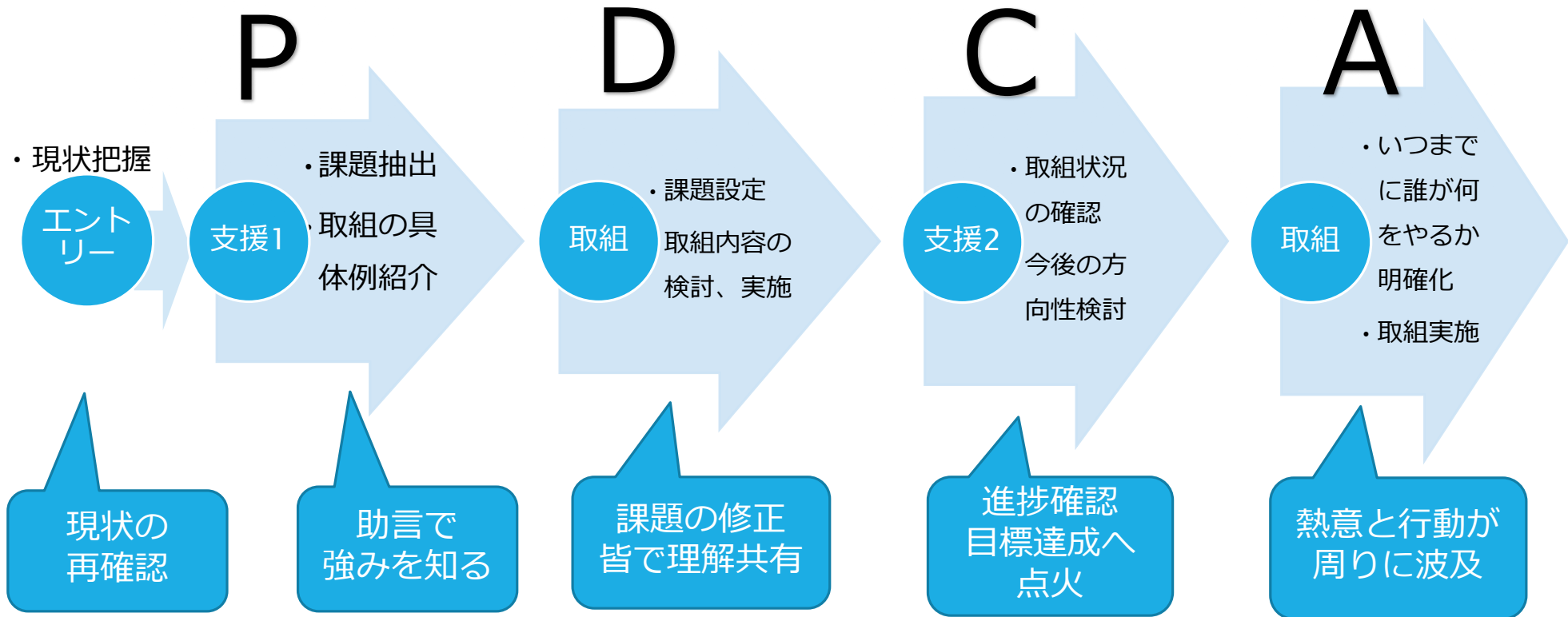
副市長
人事秘書課、総務課、企画課、地域支援課、福祉事務所、こども未来課、学校教育課、
生涯学習課、健康課、その他必要に応じて関係課に出席を求める
事務局：健康課
なお、共生推進会議の下にワーキングチーム（各課に推進員を配置）を置く

【役割】

1. 共生のまちづくりに関して関係各課の事業内容、課題を共有する
2. 具体的に連携して事業を行うための調整を行う
3. 重層的支援体制整備事業への移行計画について機構改革を含めて検討する

大川市の取組み～まとめ～

支援事業によって規範的統合ができ、P D C Aサイクルが回った



大川市の取組み～まとめ～

【短期間に取組成果が出た要因＝厚労省職員派遣支援事業の効果】

1. 帳票がすごい

- ◆ 支援を受けた後に内容を振り返り、提供してもらった帳票を参考に話し合っってシートを作成する過程が、**皆が同じレベルで目標を理解し共有する機会**となり、それを達成するために各担当ができることを考え実行することができた。

2. 直接見て聞くのがすごい

- ◆ できていない部分に注目しがちだが、**強みに気づかせ褒めてくれることと適切な助言**によって、自信をもって前向きに取り組むことができた。
- ◆ 押し付けではなく**必要としている情報を惜しみなく提供**してもらい、取組のスピードアップができた。
- ◆ 定期的に外部の目が入ることによって、良い意味の緊張感が生まれ取組の後押しになった。

大川市の取組み～これから～

令和3年度からの取組～厚労省職員派遣支援事業の成果を活かして～

地域包括支援センター及び介護支援専門員の質の向上と平準化

- ① 年1回地域包括支援センター全員及び介護支援専門員に研修（ケアプラン自己点検プログラム）の実施
- ② 年1回以上、地域包括支援センター及び介護支援専門員対象の資質向上研修の実施
- ③ 令和3年度から新たな体系での地域ケア会議の実施
- ④ 令和3年度から地域リハビリテーション活動支援事業を活用しリハ職が地域包括支援センター職員に同行訪問するケアマネジメント支援の実施

高齢者の社会参加をはじめとする、誰もが自分らしく生きられるまちづくり

- ① 住民主体の移動支援及び生活支援の創設
- ② 地域医療介護総合確保基金を活用したボランティアポイント事業の創設
- ③ 短期集中型訪問事業の創設及び短期集中型通所事業の拡充
- ④ 住民への周知啓発の強化（総合事業のパンフレット作成、医療機関への周知、窓口での動画活用等）
- ⑤ 庁内連携推進会議の運営